

No. 24 2026年 5月 10日

復活後第五主日礼拝
説教『喜びが与えられる』

司式 吉丸初美 師
山根眞三 師
奏楽 白石百合子さん
招詞 Iヨハネの手紙 5章 6～12節
主の祈 (564)
讚詠 5 4 6
交読詩編 詩 9 5 編
祈禱 美歌 21 - 5 0 9
使徒信条 (566)
聖書 ヨハネ福音書 16章 12～24節
説教 (口語訳168頁、新共同訳200頁)

『喜びが与えられる』

祈禱 美歌 21 - 5 9
聖餐式 (21 - 8 1)
献金
感謝告
頌栄 5 4 1
祝禱
後奏

次週の礼拝(復活後第六主日礼拝)
説教『その時には』
ヨハネ福音書 16章5～15節
招詞 エペソ人3章16～17節/交読詩編92編
讚美歌 546、21-227、21-493、542

礼拝当番
今週 10日 司会 山根眞三 師
次週 17日 司会 安部愛さん
会堂清掃奉仕 6月7日(日)
コーヒータイム後

本日の集会

★教会学校 午前9時45分
★コーヒータイム 礼拝後～
それぞれの思いを語りあいましょう。

§弦楽四重奏(カルテット)コンサート 礼拝後～
ドボルザーク 弦楽四重奏曲第12番 ヘ長調
「アメリカ」作品96, B.179より 第1楽章

★5月定例教会役員会 コンサート終了後
教務・教勢報告、役割分担、新年度の方針
役員の仕事と健康を覚えてお祈りください。

今週の集会/スケジュール

§広島県教誨師会総会 5月11日(月)13時～
於:広島ガーデンパレス

★聖書を読む会 5月12日(火)10時30分～12時
創世記16章を読みます。

§広島キリスト教信徒会理事会 5月12日(火)14時～
於:広島復活教会

§広島拘置所教誨奉仕 5月13日(水)13時30分～16時

★昇天日(キリスト) 5月14日(木) お祈りください。
◆めぐみ幼稚園礼拝 5月15日(金)10時30分～

次週以降のスケジュール等

●レコードコンサート 5月17日(日)13時～15時30分
ベートーヴェン 弦楽四重奏曲 第14番 嬰ハ短調
ベートーヴェン 交響曲 第7番 イ長調 作品92

§全国教誨師大会 5月26日(火)～27日(水)
会場:鹿児島城山ホテル

§山根師、市川さんは6日牛田にある教会の共同墓
の清掃とお参りに行かれました。

§吉丸師は6日剛家さんを生協病院に見舞われました。

◎ 公 告 ◎

★第75回西中国定期総会 5月19日(火)13時30分～
～5月20日(水)16時 会場:カリエンテ山口

先週の集会	男	女	計
教会学校	0	0	0
主日礼拝	3	3	6

◇今週の説教(復活後第五主日礼拝)

『喜びが与えられる』ヨハネ福音書 16章12～24節
イエスさまは公生涯のはじめに先ず弟子を招かれ、彼らは呼
びかけに応え職業を捨てイエスさまの活動に献身した。寝
食ともにし旅をして歩んだ年月の間、イエスさまは彼らに多く
のことを語られ教えられたが彼らには理解できなかった。何
故か。それは彼らが知識も教養も特別な能力も無縁だった
からではない。真理は隠されていた。話されたこと働かれた
こと。つまり、イエスさまが本当に分かるまでは、彼らも民衆も
イエスさまの思いからは遠くあったのだ。そして、弟子たちは
何を聞いても今は耐えられない、と彼らの限界が認められ話
しが進められる。同じく私たちの限界をも語られているのか。
十字架の出来事。死と復活。見えなくなる会える。しばらくと
はどれくらいの間なのか。彼らは分からず不安になった。
見えなくなるとは、姿の事だけではなく不信仰や絶望に陥る
状態ともいわれる。会えるとは、聖霊において再び来ること。
謎々のような言葉の意味も、聖霊が与えられるとすべてが理
解できるという。イエスさまの言葉は神の言葉。父である神と
イエスさまは一つである。弟子たちを襲う迫害や会堂追放の
苦難と絶望の中にあっても、その悲しみは喜びに変わると明
言された。それは苦難が解決するのではなくその意味が変
えられること。私たちにも耐えられないほどの絶望的な状況
がある。その時信仰が試されるのか。如何なる絶望的な状
況の中でも神とイエスさまは決して私たちを見捨てず、聖霊
を通して語られた言葉を理解させ、奪われることがない喜び
を与える。それはキリストとの再会から生じる内面に湧き出る
安らぎだ。聖霊は私たちが神の大きな愛の腕の中に飛び込
む決断ができるよう背中を押してくれる。そして私たちは新し
く生まれ変わる。聖霊によって弟子たちが新しく生まれ、イエ
スさまの名によって求めるものがすべて与えられるようになる。
祈りはイエスさまの心と一体になって祈る。しかし、私たちは
祈ることが如何に苦手であるかをイエスさまはご存じだった。
私たちは自分の力で苦難を解決しようとし喜びに結びつけ
ようとする。でも苦難の中でもイエスさまとの交わりの中で与
えられる喜びは誰も奪うことができない。それを求めたい。